

展示テーマ

地域力×女性力＝無限大の未来 ～ 男女共同参画のススメ ～



北陸農政局「消費者の部屋」

展示期間：令和5年6月1日（木）～6月30日（金）

【地域力×女性力＝無限大の未来～ 男女共同参画のススメ～】①



無くそう 思い込み、
守ろう 個性

みんなで作る、
みんなの未来。

Let us eradicate stereotypes and embrace diversity.
Our future is ours to create.

令和5年度
男女共同参画週間

6/23金▶29木

67 2023
HIRASHIMA
SUMMIT

TOCHIGI-NIKKO
Ministerial Meeting on Gender Equality
and Women's Empowerment 624-25

内閣府 男女共同参画局
内閣府男女共同参画局 ホームページ
<http://www.gender.go.jp/>
内閣府男女共同参画局 Facebook
<https://www.facebook.com/danjokuyodosankaku>
男女共同参画局 Twitter
<https://twitter.com/danjokyoku>

毎年6月23日から29日までの1週間は

男女共同参画週間

男性と女性が、

職場で、学校で、地域で、家庭でそれぞれの個性と能力を発揮できる

「男女共同参画社会」

その実現のためには、政府や地方公共団体だけではなく、

国民のみなさん一人ひとりの取組が必要です。

この機会に、男女のパートナーシップについて考えてみませんか。

— 第5次男女共同参画基本計画 —

男女共同参画社会基本法に基づき、政府が策定する基本計画です。

令和2年12月25日に閣議決定しました。

目指すべき社会

- ① 男女が自らの意思に基づき、個性と能力を十分に発揮できる、公正で多様性に富んだ、活力ある持続可能な社会
- ② 男女の人権が尊重され、尊厳を持って個人が生きることのできる社会
- ③ 仕事と生活の調和が図られ、男女が共に充実した職業生活、その他の社会生活、家庭生活を送ることができる社会
- ④ あらゆる分野に男女共同参画・女性活躍の視点を取り込み、SDGsで掲げられている包摂的かつ持続可能な世界の実現と軌を一にした取組を行い、国際社会と協調する社会

【地域力×女性力＝無限大の未来～ 男女共同参画のススメ～】 ②

農林水産業の発展、農山漁村への人材の呼び込みのためには…



女性が働きやすく暮らしやすい農山漁村にすることが重要であり、女性が地域の方針策定に参画し、女性の声を反映させていくことが必要です。

北陸4県の現状はどうか？



◇農業委員に占める女性の割合

現状（令和4年）				第5次男女共同参画基本計画の 成果目標（全国）
	委員数	女性農業 委員数	割合（%）	
全国	22,995	2,905	12.6	女性の割合： 20%（早期） 30%（令和7年度）
新潟	485	53	10.9	
富山	256	26	10.2	
石川	257	27	10.5	
福井	222	29	13.1	
北陸合計	1,220	135	11.1	

農林水産省「農業委員への女性の参画状況」（令和4年10月1日現在）

◇農業協同組合の役員に占める女性の割合

現状（令和4年）				第5次男女共同参画基本計画の 成果目標（全国）
	役員数	女性役員数	割合（%）	
全国	14,677	1,420	9.7	女性の割合： 10%（早期） 15%（令和7年度）
新潟	500	49	9.8	
富山	337	35	10.4	
石川	372	39	10.5	
福井	90	3	3.3	
北陸合計	1,299	126	9.7	

JA全中「JA女性役員等調査」（令和4年7月末現在）

◇土地改良区（土地改良区連合を含む。）の理事に占める女性の割合

	現状（令和3年）			第5次男女共同参画基本計画の 成果目標（全国）
	理事数	女性理事数	割合（%）	
全国	46,002	264	0.6	女性の割合： 10%（令和7年度）
新潟	832	1	0.1	
富山	901	1	0.1	
石川	714	1	0.1	
福井	1,481	3	0.2	
北陸合計	3,928	6	0.2	

農林水産省「土地改良区設立状況等調査」（令和4年3月31日現在）

◇認定農業者数に占める女性の割合

現状（令和4年）		第5次男女共同参画基本計画の 成果目標（全国）
	割合（%）	
全国	5.2	女性の割合： 5.5%（令和7年度）
新潟	2.9	
富山	4.7	
石川	4.1	
福井	14.2	
北陸合計	3.9	

農林水産省「農業経営改善計画の営農類型別等認定状況」（令和4年3月末現在）



◇家族経営協定の締結状況

現状（令和4年）		第5次男女共同参画基本計画の 成果目標（全国）
	締結数	
全国	59,515	70,000件（令和7年度）
新潟	1,348	
富山	288	
石川	285	
福井	326	
北陸合計	2,247	

農林水産省「家族経営協定に関する実態調査」（令和4年3月末現在）

「家族経営協定」とは、家族農業経営にたずさわる各世帯員が、意欲とやりがいを持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指し、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき、取り決めるものです。

【地域力×女性力＝無限大の未来～ 男女共同参画のススメ～】 ③

令和4年度 北陸農政局農山漁村男女共同参画優良事例表彰 受賞者

小杉 愛 氏（新潟県燕市）



小杉氏

・JA女性部では、みそ作りグループを結成。地場産大豆を使ったみそは好評で、その後に始めた市民対象のみそ作り講習会とともに現在も継続。自園においては、付加価値の向上、規格外品の有効利用のため、直売や農産加工を開始。漬物や食品乾燥機を活用した切干大根、ドライフルーツ等は消費者からの人気が高く、売り上げを徐々に伸ばしている。

・農家に嫁ぎ、夫とともに長年、果樹栽培に従事。70歳の時に経営主となり、周囲の応援を得ながら長女とともに果樹栽培の技術を習得し、生産性の低い老木の改植や消費者ニーズに対応した新品種の導入に積極的に取り組む。近隣で耕作ができなくなったなし園地を引き受け、経営規模を拡大。



規格外果実を活用した和梨のドライフルーツ

・消費者とのつながりを深め「笑顔の笑顔の農園」を目指して、「畑の朝カフェ」（果樹の収穫と地場産洋食器を使った朝食会）や「収穫祭」（小杉農園独自の取組：果物狩りやステージ催し）など、自園を会場としたイベントの開催を続けている。

・JA女性部（旧燕地区）の部長、地域のJA園芸部会（旧燕地区）の部長として活動を牽引し、地域活性化に貢献。



畑の朝カフェ

・農村女性の経営・社会参画、担い手育成に貢献できる農業者として県から「新潟県農村地域生活アドバイザー」の認定を受ける。また、農業体験や農産物加工などの「わぎ」を次世代に伝えていくインストラクターである「にいがた『なりわいの匠』」として県から認定。

・「手間や労力はかかっても子供達の一生に残る体験になるかもしれないから」との思いから、小学校の学童農園における野菜栽培・たくわん作り体験の指導や、中学生の果樹作業体験授業の受け入れを継続的に実施（燕市内の4中学校から10年以上にわたり受け入れ）。



中学生の収穫体験

令和4年度 北陸農政局農山漁村男女共同参画優良事例表彰 受賞者

貝瀬 節子 氏（新潟県南魚沼市）



貝瀬氏

・義父から酪農経営を継承し、夫と経営を開始。乳牛3～4頭から徐々に頭数を増やし、最大で50頭を飼育。平成8年からは大崎ダム里宮公園にて、休日限定でそば等の販売を開始。やりがいを感じ、徐々に手づくり品を増やして食品加工技術を磨いた。

・八色の森公園の周辺開発の話が持ち上がった際、役場職員から「公園の近隣で牛乳を使った商品を扱う店を始めないか」と声がかかった。同時期に長野県への視察においてジェラートに出会う。新潟県内の近隣地域ではまだ販売されていない新規性、かつ乳製品の中では生乳を無駄なく利用できる商材と考え、ジェラートでの出店を決意。

・酪農家5軒でジェラート店の運営主体となる「ジェラート製造販売組合」を組織し、平成13年、自家生産の生乳を使用したジェラート店「ヤミー」を出店（酪農家によるジェラート加工・出店の県内第1号の事例）。

・かくら南蛮、八色西瓜等の地元産の素材を使用し、素材の味を活かしたジェラートになるよう工夫。生乳には特にこだわりの出店を廃業した後、地元の酪農仲間の生乳を使用。



素材にこだわったジェラート

・新商品の開発に向けて、自ら酒蔵へ日本酒を使用したジェラートを提案し、酒蔵とコラボした商品を販売。また、店舗販売に加え、地元の小売店10店舗、スキー場（冬季のみ）、インターネットでも販売。



日本酒を使用したジェラート

・女性農業者グループ等の視察受け入れや講演活動を数多く行い、起業家として後進人材の育成に尽力。

・「新潟県農村地域生活アドバイザー」に認定され、県連絡会の副会長を務めたほか、JAみなみ魚沼女性総代、大和商工会理事、JAみなみ魚沼地域づくり委員会の委員を歴任し、地域の発展に寄与。

・地域とのつながりも深く、地元の小・中学生の職場体験等を毎年受け入れており、地域の子供たちへ食品加工販売業に関する学びの場を提供。

【地域力×女性力＝無限大の未来～ 男女共同参画のススメ～】④

令和4年度 北陸農政局農山漁村男女共同参画優良事例表彰 受賞者

小川 好美 氏（富山県朝日町）



小川氏とプチヴェール

・平成10年に就農し、朝日町で初めて家族経営協定を締結。就農条件の整備や役割を明確にし、後の法人化に引き継がれるとともに、話し合いを中心に夫婦、姉妹、親子が対等な立場で経営に関わるスタイルを生み出した。

・平成17年に法人化した「アグリおがわ」の取締役として園芸部門及び経営事務全般及び労務管理を担当し、農業経営の発展に貢献。令和3年度には約87ha、従業員・パートを5名雇用するなど、JAみな穂管内でも有数の大規模法人に発展している。

・就農と同時に、女性が中心となって取り組める園芸品目の導入を家族に提案し、水田作経営の複合化の先導的な役割を担ってきた。

〈プチヴェール〉平成20年に系統出荷団体「プチの会」を7戸の生産者で結成。栽培技術の定着や販売の推進等、産地形成に大きく貢献。市場出荷の他、直売所での販売に加え、県内のフレンチレストランに品質が評価され取引が始まるなど、町内外の飲食店へ食材として供給。

〈ラズベリー〉平成26年に県内20名の生産者で結成された「富山県ラズベリー研究会」の会長として栽培技術確立と販路開拓に貢献。現在、近隣市町の飲食店、洋菓子店、アイスクリーム店等の7店舗と直接取引を行っている。



ラズベリー

・朝日町特産あさひ柿で作られている「柿じまん（柿酢入り調味液）」の製造を継承するため、平成24年に新たな農産加工グループ「美の里じまん」を結成し、営業活動の強化により朝日町だけでなく入善町の学校給食、地元温泉旅館の料理などへも採用されている。

・里芋コロッケを製造する「百笑一喜」や「Aみな穂農産物直売所「あいさい広場」への野菜供給を図る「おいしい野菜部」など、意欲的な女性農業者が活動する組織活動に参加し、町の境界を越えた会の活動の盛り上げや仲間づくりなど、女性起業活動を支える存在として広く貢献。



柿じまん（柿酢入り調味液）

令和4年度 北陸農政局農山漁村男女共同参画優良事例表彰 受賞者

高木 純子 氏（石川県七尾市）



苗を買いに来た客と話す高木氏（左）

・平成10年に石川県に移住。農産物の加工品を手掛ける有限会社にて新たに立ち上がった花壇用苗部門の責任者に抜擢され、経理、営業を担当し、苗生産コスト計算や販売予測等の経営感覚を身に着けた。

・平成16年、植物園を運営する七尾市内の会社に転職し、花き生産や体験教室、直売所部門の担当となるとともに、同社が経営する植物園で定期的に営業されていた農家レストランの運営に携わり、人や地域とのつながりを広げていった。

・平成26年4月、中能登地域初の苗専作農家として独立就農を果たした。

・就農当初は、花壇用苗や家庭菜園向け野菜苗の生産が主体であったが、高い技術力を見込まれ、地元JAからの要請もあり、野菜・花き農家向けの苗の販売を開始した。農家向け苗は小ロットからの受注、品種の希望についても可能な限り対応し、年間およそ20軒の農家に苗を届けている。現在、ホームセンター、JA直売所、農家向けに多品目の苗を受注生産している。

・地元町会等が行う花壇づくり、小学校のグリーンカーテン等の緑化活動に参画するほか、寄せ植えやフラワーアレンジメント教室の講師を引き受けるなど、花と緑の普及にも貢献。



タマネギの苗（上）とパンジーの苗（下）



ハウスに並ぶさまざまな苗

・七尾市、中能登町の農業者で構成される「ななか農業振興協議会」副会長、同女性部会長、「七尾鹿島フラワーメイツ」役員のほか、県組織「いしかわ農業振興協議会」女性部理事を歴任し、女性農業者のリーダーとして活躍。

【地域力×女性力＝無限大の未来～ 男女共同参画のススメ～】 ⑤

令和4年度 北陸農政局農山漁村男女共同参画優良事例表彰 受賞者

山内 正博・百合子 夫妻（福井県勝山市）



山内夫妻とキク



「大渡ふれあい市場」の外観（上）と
福井県奥越産のいろいろな商品（下）

・昭和58年から県の食生活改善推進員として活動。平成11年度に県指導農業士に認定され、奥越地区指導農業士会の副会長、県の役員（理事）を務め、後進の育成に努めた。

また、平成16年から現在まで勝山市の農業委員を務め、今年で16年目となる（22～24年は休止）。

・正博氏はJA福井県奥越キク部会の部会長を務めるほか、民生委員（約9年）や勝山市の「障害者の親の会」の会長を50年近く務め、地域の福祉施設にキク栽培の指導に行くなど地域福祉にも貢献。

・百合子氏は昭和51年、正博氏は昭和54年に就農。農作業のうち腕力が必要なものは正博氏が行うが、それ以外は夫婦共同で行っている。平成19年には家族経営協定を締結し、夫婦共同で農業経営改善計画の認定申請を行った。

・農業経営の中心となっているキク等の規格外品の有効利用を目的に、昭和54年に集落の農村婦人グループの仲間に呼び掛け、直売所「大渡ふれあい市場」を開設。

現在は正博氏が代表となり、メンバーの協力を得ながら夫婦2人で二人三脚で運営している。

・キクを割安な価格で販売して看板商品となっているが、客のニーズに対応した野菜の栽培・販売をメンバーに勧め、実践してもらうことで野菜の売れ行きもよい。近隣の市のほか、石川・岐阜・愛知県からも来客がある。

・直売所の店番はメンバーが当番で行っており、客と親しくなることで農産物の作り甲斐を感じたり、客との対話からヒントを得て今後生産する品目を検討したりと、販売の経験が生産にプラスになっている。

・百合子氏は、昭和58年ごろ勝山市の女性中核農家10人で立ち上げた「あぜみち研究会」に参加し、イベントなどで地元の消費者に減農薬農産物を食べてもらい販売促進につなげるPR活動を、自らが中心となり行ってきた。



直売所向けの野菜



【地域力×女性力＝無限大の未来～ 男女共同参画のススメ～】 ⑥

北陸農政局管内の土地改良団体における女性活躍事例

福井県土地改良事業団体連合会

所在地：福井県福井市

会員数：134 団体
(土地改良区113、土地改良区連合2、市町17、農協2)

理事数：17人（うち女性2人）

監事数：3人（うち女性1人）

職員数：37人（うち女性8人）

土地改良事業を行う団体への技術的な支援や、情報提供、教育などを行うため、昭和33年に設立。

平成19年度から女性の意見を反映した土地改良事業の推進を図るため、理事に女性を登用。現在2名の女性理事が活躍中。

かわい くりこ

川合 久利子さん

福井県土地改良事業団体連合会
理事

- ・平成31年4月に理事就任。
- ・現在1期目。
- ・もう一人の女性理事とともに、土地改良事業の普及及び推進に携わる。

【主な経歴】

- ・ご主人が経営する川合農園の共同経営者として農業に携わる。
- ・育児に余裕ができた平成14年から、ご主人及び契約農家が作った無農薬・減農薬野菜を販売する移動式八百屋を開始。美味しい野菜で生産者と食卓をつないでいる。
- ・平成28年には、農家カフェ「KAWAI NOUEN+Cafe」をオープンし、女性の雇用を創出。
- ・また、食育・地産地消を通じた地域農業のPR活動、地域の農産物を使った加工品の普及などに取り組んでいる。



○理事就任の経緯は？

移動販売や農家カフェなどをやっていたので、時間的に余裕はないとお断りするつもりが、半ば強引に押し切られ理事を務めることに。

○理事を引き受けた決め手は？

パートナーの理解。
土地改良区は知っていましたが、どんな仕事をしているのかなど詳しいことは知らなかった。主人から、**何も分らないからこそ、できることがあるんじゃないか**と背中を押され決心しました。

○実際に理事をやってみて感じたことは？

まだ、楽しいとは感じていませんが、苦しいと思ったことはない。
知らないことばかりで新鮮。土地改良の歴史など次の世代につなげていかなければと感じています。

○女性理事登用についてどう考えますか？

農業分野では女性が活躍している。家庭も女性がいなければ成り立たない。土地改良区も**女性が活躍できる場、女性の意見が生かせる場にすべき**。男性だけでも成り立つと思うが、**女性ならではの視点も取り入れた方がいい**。女性が活躍するだけの社会が必要なのではなく、女性が幸せに仕事ができる社会の実現が必要。

○女性理事を登用するには何が必要？

女性は現実的なので、土地改良区において、**女性がどんな活躍ができるのか、女性にどんな役割があるのか明確にしてあげる必要がある**。
土地改良区は認知度が低すぎる。食に通じる重要な役割を担っているにもかかわらず、土地改良区を知っている人が少ない。まずは**PRから始めてみてはどうか**。

水土里ネット女性の会の立ち上げなど、**女性理事登用をサポートする体制（ネットワーク）作りが必要**。

女性理事登用に向けたポイント

- ・水土里ネット女性の会の立ち上げなど、女性理事登用を推進するためのネットワーク作りが重要。
- ・土地改良区における女性の役割を明確にするなど、女性が活躍できるイメージを示すことが必要。
- ・土地改良区を知ってもらうことが重要。土地改良区の役割や業務内容など幅広くPRすることが必要。



左から福井県土連 石田専門員、川合理事

【地域力×女性力＝無限大の未来～ 男女共同参画のススメ～】 ⑦

北陸農政局管内の土地改良団体における女性活躍事例

福井県土地改良事業団体連合会

所在地：福井県福井市
会員数：134 団体
(土地改良区113、土地改良区連合2、市町17、農協2)
理事数：17人(うち女性2人)
監事数：3人(うち女性1人)
職員数：37人(うち女性8人)

土地改良事業を行う団体への技術的な支援や、情報提供、教育などを行うため、昭和33年に設立。
平成19年度から女性の意見を反映した土地改良事業の推進を図るため、理事に女性を登用。現在2名の女性理事が活躍中。

たけうち しげこ
竹内 成子さん

福井県土地改良事業団体連合会
理事

- ・平成31年4月に理事就任。
- ・現在1期目。
- ・もう一人の女性理事とともに、土地改良事業の普及及び推進に携わる。



【主な経歴】

- ・福井県指導農業士
- ・梅農家。収穫した梅で梅干しを作るほか、露地野菜も生産。
- ・集落の仲間と協力して、耕作放棄地の再生に取り組んでいる。集落の子供会の収穫体験や食育としてジャガイモなどの植え付けも行っている。
- ・農協理事や農業委員などの役員を22年間務めた後、連合会の理事に就任。

○理事就任の経緯は？

農業関係団体の役員以外にもやりたいことがあったので断ろうと思っていたが、農協理事や農業委員を経験することで色々な勉強ができ、世の中にはまだまだ知らないことがたくさんあると感じていた。**更にどんなことが学べるか興味を沸き、知識や人のつながりが広がることによって、地域に少しでもお役に立てればと思い引き受けた。**

○実際に理事をやってみて感じたことは？

- ・農業委員の経験が生きていると感じている。
- ・知識が無い状態で理事を務めることは難しいが、それは男性も同じこと。
- ・土地改良は特殊な世界であり、色々なことを経験したり勉強したりしないといけないが、**勉強する機会があれば、男性も女性も関係ない**と思う。

○女性理事登用にに向けたアドバイスを！

- ・初めて土地改良区の理事に就任する方は少なからず不安を抱いていると思うので、**理事就任後に研修会や勉強会を開催するなど、フォローアップが必要**。
- ・土地改良について学ぶ場、土地改良区の話が出るような場が必要。地域内で、農協理事や農業委員を経験した女性等で構成する**ネットワークを立ち上げ、女性理事登用にに向けた取組の推進は有効**と考える。
- ・土地改良区が何をしている団体か知らない人が多い。土地改良区の仕事や役割について、**色々な人の目に触れるようPRした方がいい**。
- ・**女性だからと遠慮することはない。努力できるかどうかに性別は関係ない**。

○女性理事になられる方へのメッセージを！

- ・自信を持ってできることをやって欲しい。
- ・誰でも理事になれる訳ではないので、声が掛かったら**躊躇するのではなく、チャレンジして欲しい！**

女性理事登用にに向けたポイント



左から福井県土連 石田専門員、竹内理事
福井県農村振興課 西主任

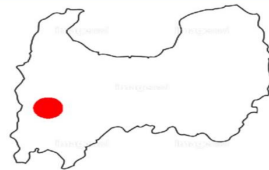
- ・水土里ネット女性の会の立ち上げなど、女性理事登用を推進するためのネットワーク作りが重要。
- ・理事就任後の研修会の開催など、フォローアップ体制の構築が重要。
- ・土地改良区を知ってもらうことが重要。土地改良区の役割や業務内容など幅広くPRすることが必要。

【地域力×女性力＝無限大の未来～ 男女共同参画のススメ～】 ⑧

北陸農政局管内の土地改良団体における女性活躍事例

南砺市土地改良区

所在地：富山県南砺市
地区面積：7,285ha
組合員数：6,673名
理事数：27人（うち女性1人）
監事数：4人（うち女性1人）
職員数：13人（うち女性6人）



南砺市は、富山県南西部にある市。散居村で有名な砺波平野の南部と、世界遺産の相倉・菅沼合掌造り集落を有する五箇山からなる。

令和4年2月に、南砺市内の5土地改良区（福野町土地改良区、城端土地改良区、井口村土地改良区、井波町土地改良区、福光町土地改良区）が合併し、発足。

合併を契機として、土地改良区の運営に多様な意見を反映させるため、女性理事を登用。

【女性理事登用の背景】

合併を契機として、土地改良区の運営に関して多様な意見を反映させるため、地区選出枠とは別に全域枠（学識経験者枠）を設け、理事を登用することとし人選を行っていたところ、県から、男女共同参画の観点から、農業分野に知見を持った女性を登用してはどうかとの助言を受け、女性理事登用に至ったもの。

杉森 桂子さん

南砺市土地改良区 理事

- 令和4年4月に理事就任。現在1期目。
- 南砺市井波地区において、米、里芋などの生産を行っている。
- 農協理事や農業委員など、農業関係団体の役職を歴任。
- NPO法人グリーンツーリズムとやま理事、とやま帰農塾南砺塾塾長を務めるなど、都市農村交流やグリーンツーリズムの推進に取り組んでいる。



○理事就任の経緯は？

- 南砺市土地改良区が発足する際、土地改良区の運営に多様な意見を取り入れるため、女性理事を登用することとなり、農協理事や農業委員を経験し、農業分野に関する知識を持っていた私に声がかかった。
- 農協理事や農業委員の経験があったため、土地改良区理事のオファーがあった時も抵抗はなかった。
- 夫が土地改良区の総代を務めていたこともあり、土地改良事業に関してある程度理解はしていた。

○実際に理事をやってみて感じたことは？

- 農協理事や農業委員の経験が役に立っていると感じる。土地改良区の役員には顔見知りが多かったため違和感なく溶け込むことができた。
- 理事に就任したばかりで土地改良区で取り組みたいことのイメージはまだ沸いていないが、持っている知識を活かせるような取り組みを行っていきたい。

○女性理事登用にに向けたアドバイスを！

- 土地改良事業実施の際、理事は地元調整役となるため、土地改良事業の仕組みを理解しておく必要がある。理事として活躍するためには、土地改良に関する知識が必要不可欠。そのためには、勉強会や研修会等を開催するなど周囲のフォローアップが必要。
- 農協理事、農業委員を経験し、農業分野に関する知識を養ってから土地改良区の理事に就任する形がいいのでは。
- 女性も自ら勉強し、自分の仕事はしっかりこなすことが重要。

女性理事登用について、^{じょうづか}定司理事長にお聞きしました

- 女性理事登用に際しては、地区選出枠では女性の選出は困難であるため、全域枠（学識経験者枠）を設けることが有効だと考えている。
- 最近では土地持ち非農家が増えており、土地改良区と農業者のつながりが希薄になっていると感じるため、女性理事登用に関しては、女性農業者を理事に登用することが望ましいと考えているが、候補者の掘り起こしに苦勞する。農協、農業委員会や地域の女性農業者とのつながりを持つことが大切である。
- とやま水土里ネット女性の会を活用し、女性農業者のネットワークを作った上で、女性理事候補者の掘り起こしを行うことが有効と考える。
- 女性が、土地改良区理事のオファーがあった時に抵抗を感じないための環境づくりが必要である。



【地域力×女性力＝無限大の未来～ 男女共同参画のススメ～】 ⑨

「農業女子プロジェクト」について ～概要～



趣旨

「農業女子プロジェクト」（2013年設立）は、農業内外の多様な企業・教育機関等と連携して、農業女子の知恵を生かした新たな商品・サービスの開発、未来の農業女子をはぐくむ活動、情報発信等を行い、社会全体での女性農業者の存在感を高め、女性農業者自らの意識の改革、経営力発展を促し、職業としての農業を選択する若手女性の増加を図ります。農業女子同士のネットワークづくりにも取り組んでいます。

参加メンバーデータ

農業女子メンバー 全国 **945名**
 参画企業 **35社**
 教育機関 **8校**

(2023年4月30日現在)

具体的な取組

企業プロジェクト

企業と農業女子メンバーが協同で新たな商品やサービスの開発等を行い、女性農業者の活躍や魅力を発信（それぞれの企業活動の一環として推進）

チーム“はぐくみ”

高校・大学等の教育機関と活躍する魅力ある農業女子メンバーが連携し、農業を志す学生の発掘や動機づけ、意識の向上のための取組を実施

SDGs活動の発信

“農業者のわたしたちにできる5つのこと”として農業女子メンバーのSDGs活動を発信

農業女子ラボ活動

メンバー自らの関心の高いテーマについて自主的に勉強会等を実施

SNSやイベント等を活用した
女性農業者の魅力発信

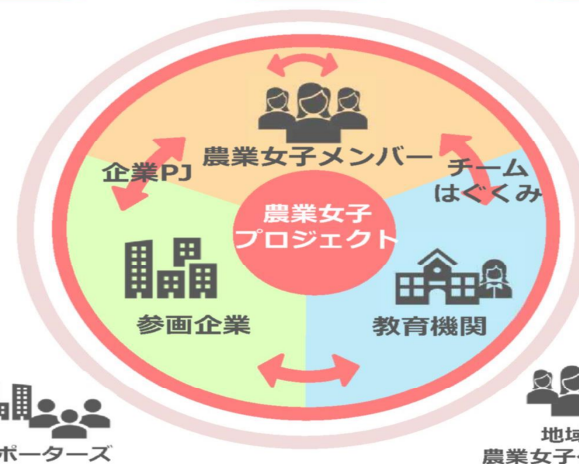


プロジェクトの目的

社会、農業界での
女性農業者の
存在感を高める

女性農業者自らの
意識の改革、
経営力の発展

若い女性の職業の
選択肢に
「農業」を加える



第10期 農業女子プロジェクトの活動方針

(2022年11月～2023年10月)

1. 「NEXTラボ」のトライアル実施
2. 地域でつながる場の設定
3. 「農」の魅力の発信

【地域力×女性力＝無限大の未来～ 男女共同参画のススメ～】 ⑩

“持続可能な社会の実現のために
農業者のわたしたちにできる5つのこと”



農業女子が取り組んでいる「SDGs」につながる活動の中から5つのメインテーマを抽出し、農業女子に積極的に取り組んでほしいゴールとして設定。

【農業女子たちの取組事例】

その1 健康的な食生活の実現に取り組む



その2 農作業体験から“食”と“農業”の大切さを教える



その3 働きやすい環境をつくり、地域の主要産業になることを目指す



その4 農村の魅力を発信し、地域の農業を維持する



その5 自然によりそった持続可能な農業の実現に取り組む



保育所で「お迎えマルシェ」開催



学校給食への食材提供



小学校での出前授業、収穫体験



農を伝える絵本の制作・読み聞かせ「AGRI BATON PROJECT」



女性が働きやすい職場づくり



スマート農業を活用したストレスフリーな農業経営



町の人たちに地域の農の魅力を紹介



メディアを通じて農への想いを発信



貝殻等の海洋廃棄物を使った循環型農業



ブドウの搾りかすで肉用牛を肥育



【地域力×女性力＝無限大の未来～ 男女共同参画のススメ～】 ⑪

教育機関と未来の農業女子をはぐくむ活動を展開



チーム“はぐくみ”

第3期
(2015.11～)

東京農業大学

新たなワークスタイルを提案するkawaii農業女子育成PJ

蒲田女子高等学校

農業からはばたけ！チャレンジ&応援PJ

第4期
(2016.11～)

産業能率大学

大学生(女子大生)による農業女子PJのインスタグラムによる情報発信

第5期
(2017.11～)

近畿大学

近大流農業女子育成PJ

東京家政大学

ワークライフバランスin農業女子プロジェクト

桜美林大学

農業のリベラルアーツ

第6期
(2018.11～)

山形大学

地域がはぐくむ未来の農業女子

第9期
(2021.11～)

南九州大学

Farm to Table 南九州大学農業女子PJ

東京農業大学

- 農業女子メンバーの農場でインターンシップを実施



産業能率大学

- インスタグラムを使った農業女子の情報発信
- 農業インターンシップも体験しつつ経営の観点からの情報発信を行う



桜美林大学

- 農業女子メンバーによるセミナー開催
- 農業の魅力発信を研究



東京家政大学

- 農業女子メンバーによるセミナー開催
- 文化祭でメンバーの食材活用



蒲田女子高等学校

- 農業女子プロジェクトメンバーによる講義



近畿大学

- 卒業生である農業女子メンバーが母校で講演
- 農業女子メンバーの農場でインターンシップを実施



山形大学

- 農業女子メンバーと学生によるワークショップ
- 農業女子プロジェクトメンバーによる講義
- 農業女子メンバーの農場でインターンシップを実施



南九州大学

- 宮崎県の女性農業者グループ、農業女子PJメンバーと共に、Karada Good Miyazakiフェスタ 2021に出店
- 販売した農産物の栽培をお手伝い



【地域力×女性力＝無限大の未来～ 男女共同参画のススメ～】 ⑫

農業女子プロジェクト参画企業



農業女子PJ

第1期
(2013.11～)

井関農機

「夢ある'農業女子'応援Project」

ダイハツ工業

農業女子マルシェ×ハイゼットトラック全国展開

モンベル

フィールドウエア開発プロジェクト

タニタ

郷土料理でつながろうプロジェクト

三越伊勢丹

農業女子とお客様を繋ぎ、日本の農業の未来を創る

サカタのタネ

ハッピーベジタブルで「新野菜」の需要創造！プロジェクト

丸山製作所

ウルトラファインパブル農業女子を応援PJ

第2期
(2014.11～)

SHARP

「スマート農業技術の知見アップ」プロジェクト

東邦

汚れも悩みもスッキリ！農業をもっと楽しく！プロジェクト

東和コーポレーション

「あなたに贈る、あなたと創る」プロジェクト

バンダ*イムコアミューズメント

『農業×エンタメ』創出プロジェクト

第3期
(2015.11～)

城北信用金庫

「作る」から「創る」へ！ビジネス&ライフ応援PJ

フマキラー

「素敵・未来・ガーデン」プロジェクト

第4期
(2016.11～)

豊島

農業女子的ファッション改革PJ

コビ*コビウイズ

「おいしい！」を未来までつなげようプロジェクト

大日本印刷

農業女子の未来のあたりまえをつくるPJ

近正

農作業を快適に!! 農業女子サポートPJ

カネコ総業

使いやすい便利用品の開発と動画マニュアルの拡充

第5期
(2017.11～)

日本農業

明日の農業女子を考える日農PJ

楽天

楽天ラクマ「産地直送・こだわり食品」

象印マホービン

農業女子 In ライフスマイルプロジェクト

アイアグリ

農家のみなさんに届け！

Kewpie

あいち みんなのサラダ

第6期
(2018.11～)

温泉道場

農女プロデュース 替わり風呂PJ

桃谷順天館

美味しく食べて、腸からキレイに！Bistro M's PJ

第7期
(2019.11～)

全国農協観光協会

農業女子つなぐプロジェクト

日本品質保証機構

農業女子プロジェクトGAP講座

ヘッス

くだものギフト&生花ギフトに付加価値を

ミズホ

「食べる健康!美味しいは安全 Mリンシステム(農法)」

カクイチ

カクイチ A-SITE を活用した農業女子活動促進

第8期
(2020.11～)

ミズノ

モノ・コト農業改善プロジェクト

味の素ALシ-サ°ライ

「アミノ酸から作物の元気を広げよう！」プロジェクト

NTTレゾナント

マルシェ農業女子プロジェクト

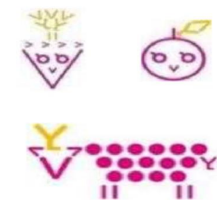
CROSS PLUS

農業女子と考える“ワークライフファッション”

マイファーム

「仕事としての農業、いいかも!」と思ってもらえるようなWEBメディアを通じた情報発信

合計 35社





これまでの企業プロジェクトの主な成果

井関農機

女性も使いやすい農業機械を開発

◆農業女子草刈機『プチもあ』

【2017.12】

- ・動画で使用方法等を確認できるQRコードを添付
- ・サイドクラッチレバーやグリップを操作しやすく改良



◆耕耘機『ちょこプチ』【2016.12】

◆トラクタ『しろプチ』【2015.6】

カネコ総業

女性も使いやすい農具を開発

◆【Lacuno】シリーズ

【2021.1】

- ・手になじみ、作業しやすく疲れにくいらくらくグリップシリーズ「Lacuno」(ショベル・キッズ鎌・鍬)の開発



◆【Lacuno】シリーズ

(鎌・鍬・レーキ)

【2018.11】

ダイハツ工業

女性目線の軽トラック開発

◆女性目線の軽トラックの開発

【2014.9】

- ・カラフルな全8色のボディーカラー
- ・UVカットガラス採用。
- ・フロアの高さを下げるなど乗降しやすく。



モンベル

農作業も快適な作業着を開発

◆フィールド クールパーカ Women's

【2021.1】

- ・農業女子の意見を取り入れて、素材やシルエットにこだわり、暑い季節の農作業を快適にする速乾性・通気性に優れたパーカを開発



◆フィールドもんぺ

【2019.3】



◆フィールド レイン ジャケット Women's フィールド レイン パンツ Women's

【2018.9】

◆クリマプロ フィールドストレッチ カバーオール women's

【2016.9】

楽天

ネット販売で農業女子をPR

◆「ラクマ」にて農業女子の野菜・加工品販売

【2017.11～】

- ・農業女子の魅力が詰まった特設サイトも開設
- ・ECで顔の見える販売を実現



農業女子PJ × Rakuten ラクマ

全国農協観光協会

都会の女性と農業女子をつなぐイベントを開催

◆都心部でマルシェ開催【農業女子つ・な・ぐPJ】

【2020.11～】

- ・農業に馴染みのない新宿や丸の内、表参道、日本橋といった都心部でマルシェを開催
- ・オンラインで収穫体験や料理体験を開催

